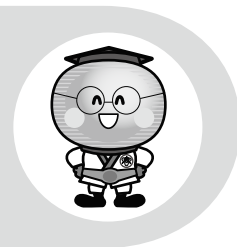
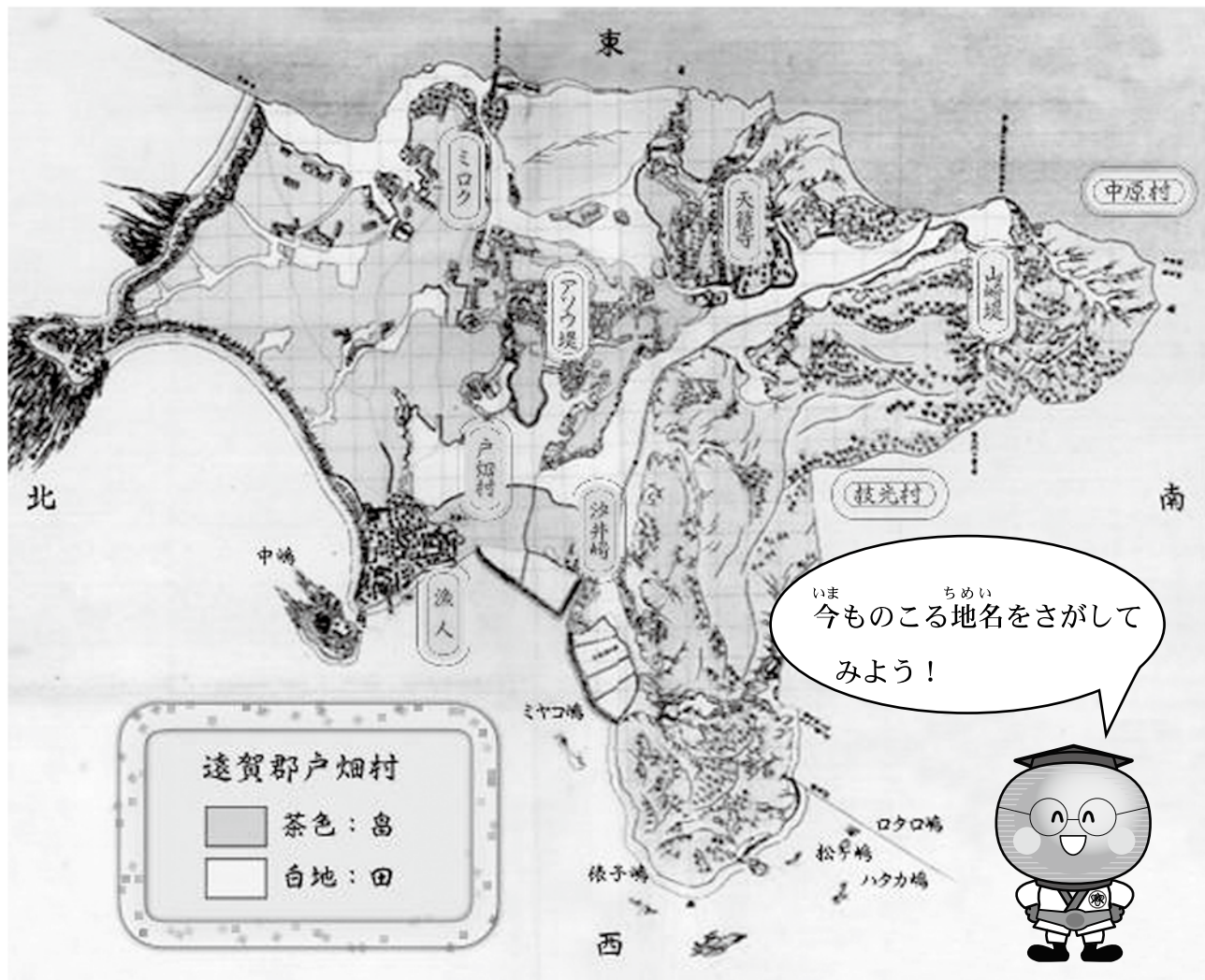


# 江戸時代の戸畑の様子を のぞいてみよう！



江戸時代(1603年～1867年)の戸畑はどのような様子だったのでしょうか。下の地図は江戸時代1830年ごろの戸畑の様子が書かれた古い地図です。



この中には、汐井崎、天籟寺、アソウ、ミロクなどの地名が書かれています。江戸時代の戸畑は、海と山にかこまれ、田や畑が広がり農業や漁業が行われていました。街道(大きな道路)ぞいの宿場町などではなかったので、人の行き来は少なかったようです。大きな事件やできごとの記録もほとんどのこっていないので、静かで平和な村だったのでしょうか。

## 中原村・戸畑村、慶長古図と正保古図に登場！

1614年(慶長19年)と1647年(正保4年)に筑前藩から江戸幕府に提出された地図には、「戸畑村」と「中原村」が書かれています。

ちくぜんのくに ぶぜんのくに くにざかい とばた  
**筑前国と豊前国の国境だった戸畑**

えどじだい さかがわ さかい にし とばた ちくぜんのくに ひがし こくら ぶぜんのくに わ  
 江戸時代まで、境川を境に西がわ(戸畑がわ)が筑前国、東がわ(小倉がわ)が豊前国に分か  
 れていました。この2つの国の境をはっきりとしめすために、国境石が中原や金比羅池、八幡の  
 ほう にもたくさん 建てられていました。国境石は旅人の道しるべにもなりました。このあたりには、  
 いま 今もいくつかの国境石がのこされています。

なかばる ひかえいし  
**中原控石**

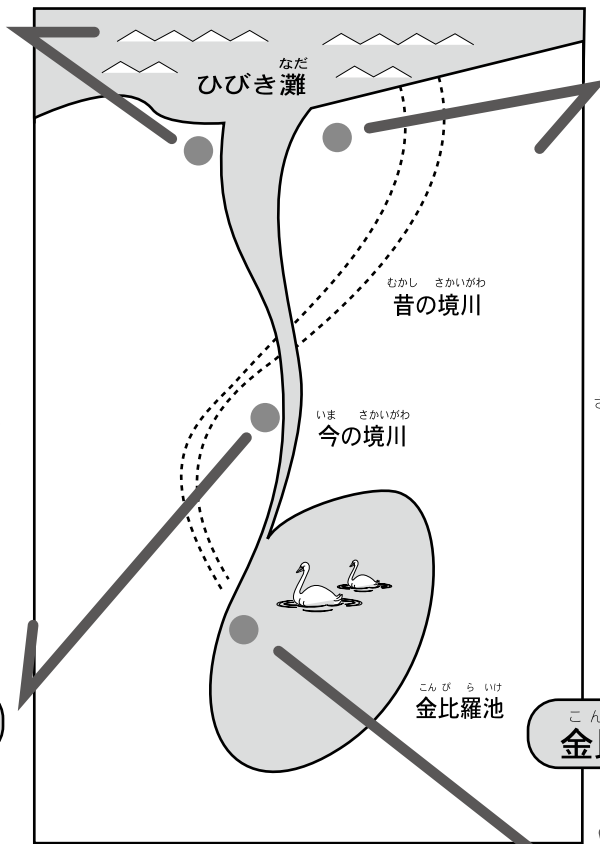


ねん かんせい ねん た  
 1797年(寛政9年)に建てら  
 れた控石。控石は国境石がどこ  
 に建っているのかが書いてある  
 石のことです。今は中原市民セ  
 ンターにあります。

さかがわ こっきょうせき こくらぎたく  
**境川の国境石(小倉北区)**



ねん てんぼう ねん た  
 1841年(天保12年)に建てられ  
 た国境石。「従是西筑前国」(ここ  
 から西は筑前国)と彫られています。  
 境川の河口にあるものはレプリカ(本  
 物に似せてつくられたもので、  
 当時のものは八幡東区の「いのち  
 のたび博物館」にあります。



とばたとしょかんまえ こっきょうせき  
**戸畑図書館前の国境石**



ねん てんぼう ねん た こっきょうせき これより  
 1842年(天保13年)に建てられた国境石。「従是  
 ひがしぶぜんのくにこくら ひがし ぶぜんのくに こくら ほ  
 東豊前国小倉」(ここから東は豊前国の小倉)と彫  
 られています。境川の近くに建てられましたが、  
 いま とばたとしょかんまえ  
 今は戸畑図書館前にあります。

こんびらいけ こっきょうせき こくらぎたく  
**金比羅池の国境石(小倉北区)**



ねん ぶんか ねん た こっきょうせき これよりにしちくぜん  
 1817年(文化14年)に建てられた国境石。「従是西筑前  
 のくに にし ちくぜんのくに ほ いま こんびらいけ  
 国」(ここから西は筑前国)と彫られています。今は金比羅池  
 になっていますが、国境石が建てられたとき、この場所  
 には谷にそった山道が通っていたと考えられています。